

## 広報広聴委員会先進地視察報告

- ・日 程：令和8年1月22日（木）
- ・視察先：愛知県瀬戸市、愛知県岡崎市
- ・目 的：1 愛知県瀬戸市
  - (1) せとまちトークについて
  - (2) 議会だよりに関する工夫について
- 2 愛知県岡崎市
  - (1) 学生と市議会議員の意見交換会について

### 1 愛知県瀬戸市

瀬戸市は愛知県の北東部に位置し、名古屋市に隣接するほか、尾張地域の丘陵地と平地が広がる都市である。市域は標高差のある丘陵地を含み、瀬戸川などをはじめとする河川と陶磁器づくりの歴史を背景に、住宅地・商業地・工業地が混在している。

瀬戸市は古くから瀬戸焼で全国的に知られ、陶磁器産業がまちの文化と経済を支えてきた。近年では名古屋都市圏のベッドタウンとして発展している。

総人口は125,321人、世帯数は58,554世帯。（令和7年12月1日現在）。

高齢化率（65歳以上人口）は約30%前後となっており、全国的な傾向と同様に少子高齢化・人口減少が続いている（直近国勢データによる。）。議会構成としては、議員定数は26名、実数26名となっている。

#### (1) せとまちトークについて

##### ア 実施の経緯及び概要について

瀬戸市議会基本条例第7条第2項において、「議会は、市民に対し議案等の審議の経過及び結果について報告するとともに、市民の意見を的確に把握し市政に反映させるため、市民との意見交換会を開催する。」と定められている。また、この意見交換会は、市民の声を聴いてまちづくりに生かすことを目的としており、議員自らが市内各地域または開催場所に出向いて市民と直接語り合う場として位置付けられている。

瀬戸市議会では、この意見交換会を「せとまちトーク」と名付け、定期的に行っている。令和元年から継続して実施されており（新型コロナウイルス感染症の影響により令和2年は中止）、テーマごとに分かれて市民との意見交換が行われてきた。令和5年から令和7年までの開催では、議会が優先的に取り組む課題をテーマとして設定し、グループディスカッション形式で課題の背景や解決策・アイデアについて市民から意見を聴取している。

原則として事前申込み不要で、市民であれば誰でも参加できる形式で実施され

ている。令和7年11月開催分では、複数日程・複数テーマに分かれて意見交換が行われ、終了後にはフリーテーマの時間も設けられている。参加者の意見や提言は、所管委員会等で共有され、調査研究や政策提言に生かされる仕組みとなっている。

#### イ 主な取組及び成果について

瀬戸市議会は「せとまちトーク」を通じ、市民意見を政策資源として活用する仕組みを継続的に改善してきた。テーマ設定とフリーテーマ併用による深掘りと多様な意見収集を両立し、AIで意見仕分けの負担も軽減した。開催時間や場所の工夫、議員によるチラシ配布で新規参加者が増加した。得られた意見は一般質問や調査事項へ反映され、対話から政策形成につなげる循環が確立されている。

#### ウ 所感

せとまちトークは、市民の意見を政策資源として生かすため、開催方法やテーマ設定を毎年検証・改善してきた点が非常に印象的であった。フリーテーマ中心から、常任委員会の調査事項をテーマ化することで議論の深掘りを図りつつ、フリーテーマも併設する柔軟な運営は、多様な意見と質の高い議論の両立を可能にしている。また、参加者の固定化という課題に対し、平日夜間や昼間、週末開催など時間設定を工夫し、議員自らが街頭でチラシ配布を行うなど、参加しやすさを最優先にした姿勢から学ぶ点が多い。さらに、市民意見を整理・管理し、政策提言や一般質問へとつなげる明確なサイクルは、市民参加を形式に終わらせない仕組みとして高く評価できる。本市においても、「報告」から「対話」へと重心を移し、市民の声を政策に反映させる意見交換の場づくりを検討していく必要性を強く感じた。

### (2) 議会だよりに関する工夫について

#### ア 実施の経緯及び概要について

瀬戸市議会だよりは平成14年12月定例会号から発行が始まり、年4回の定例会号と7月の臨時会号を市内全戸へ配布してきた。紙面はA4判12ページのフルカラーで、平成21年から横書きへ変更している。広報広聴の充実を掲げる基本条例に基づき、広報広聴協議会が編集を担当し、質問原稿の提出や校正作業を経て作成される。平成27年から表紙写真を公募し、平成31年には人物写真も掲載可能とし、市民参加を広げている。

#### イ 主な取組及び成果について

瀬戸市では、議会だよりの印刷費を広報誌と按分し、デザイン費も広報側に集約することで効率化を図っていた。また、表紙写真の一般公募やSNS活用など、市民参加と多様な媒体による発信が特徴であった。横書き化やフルカラー化により視覚的な分かりやすさを追求し、一般質問や議案の要点を簡潔に整理するなど、

市民に伝わる紙面づくりが徹底されていた。これらの工夫は議会広報の質の向上に寄与していた。

#### ウ 所感

今回の視察を通じ、議会だよりが単なる会議記録ではなく、「議会が何に取り組んでいるのか」を市民に伝える広報媒体として再定義されつつあることを強く感じた。特に印象的であったのは、「議会だよりは家族にすら読んでもらえない」という瀬戸市議会の議員の言葉であり、従来型の紙面では市民の関心を引くことが難しい現状を象徴していた。瀬戸市では、写真や見出しの工夫、横書きなど、読み手の視点に立った誌面改善が徹底されており、「家族が手に取るレベル」を目指す姿勢に強い共感を覚えた。また、表紙の一般公募やSNS活用など、多様な媒体を組み合わせた広報戦略は、議会を身近に感じてもらうための有効な手法であると感じた。議会報告会の参加者減少が課題となる中、固定観念にとらわれず広報広聴活動を見直し、変化を恐れず取り組む姿勢が求められている。本市においても、先進事例を参考に、市民目線で読みやすく、議会活動の意義が伝わる議会だよりの実現に向けて改善を進めていく必要があると強く感じた。

## 2 愛知県岡崎市

岡崎市は、愛知県のほぼ中央に位置し、市の北部から東部にかけて緑豊かな山地が広がり、中央部から南部にかけて乙川や矢作川が流れる平坦地が形成されている。国道1号線や248号線が通っているほか、東名高速道路岡崎インターチェンジ、新東名高速道路岡崎東インターチェンジを有するなど、広域交通の利便性が高い地域であり、製造業を中心に商業、物流など多様な産業が集積している。

また、JR東海道本線及び名鉄名古屋本線が市内を走り、名古屋圏への通勤・通学圏として住宅地の整備が進み、都市機能と自然環境が調和したまちづくりが進められている。

大正5年7月1日に市制を施行し、愛知県内で3番目の市として誕生した。現在は「活力ある産業都市」「歴史と文化を生かしたまち」の実現に向け、各種施策を推進している。

総人口は381,338人（令和7年12月現在）、世帯数は173,007世帯。議会構成としては、議員定数34名、実数34名となっている。

### (1) 学生と市議会議員の意見交換会について

#### ア 実施の経緯及び概要について

平成30年に、各派代表者会議で「若者への情報発信と意思把握」を目的に大学との意見交換会が提案され、検討部会を経て「おかげ未来“夢”プロジェクト」として岡崎女子大学等で初開催された。以後は、高校生との意見交換会へ発展し、

議会理解の促進と市政への関心向上、将来の投票率向上を目的に毎年夏に実施している。議場等を会場とし、テーマは高校側または議会側が提案し、20人前後の生徒が参加している。

#### イ 主な取組及び成果について

岡崎市では、大学生・高校生との少人数対話形式の意見交換会を継続し、学生の生活実感に基づく提案を議員が直接受け止め、行政への提言や一般質問につなげている。テーマ設定や参加者選定を学校側に委ねることで負担を軽減し、信頼関係の構築にも成功していた。また、議場での発表や事前学習の導入により、若者が市政を身近に感じる効果が高まっていた。これらの取組は、若者の政治参加促進に寄与する成果を上げていた。

#### ウ 所感

今回の視察を通じ、岡崎市議会が若者を「政策形成のパートナー」と位置付け、継続的に意見交換会を実施している姿勢に強い感銘を受けた。大学生との対話を市長への提言書としてまとめる仕組みや、高校生の意見を議場で発表させる工夫は、若者が自らの声が行政に届く実感を得られる点で非常に優れている。また、テーマ設定や参加者の調整を学校側に委ね、無理なく実施できる体制を築いていることから、議会と学校の信頼関係が深く根付いていることも印象的であった。

知多市は高校が1校のみで岡崎市と環境は異なるものの、夏休み前の時期に実施するなど工夫次第で若者との意見交換は十分可能であると感じた。特に、議会報告会への参加者減少が課題となる中、既存の学校コミュニティと連携し、若者の声を直接聞く場を設けることは、議会を身近に感じてもらう有効な手法である。

本市においても、形式的な報告会から脱却し、若者が「自分たちの未来を語る場」として議会を捉えられるよう、岡崎市の取組を参考に双方向の対話の場を構築していく必要性を強く認識した。